【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成25年7月11日(2013.7.11)

【公開番号】特開2010-279041(P2010-279041A)
【公開日】平成22年12月9日(2010.12.9)
【年通号数】公開・登録公報2010-049
【出願番号】特願2010-122648(P2010-122648)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｂ　1/713　(2011.01)
Ｈ０４Ｊ　11/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｊ　13/00　５００
Ｈ０４Ｊ　11/00　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成25年5月27日(2013.5.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
ビットストリームを変調してＯＦＤＭ（ｏｒｔｈｏｇｏｎａｌ　ｆｒｅｑｕｅｎｃｙ　ｄｉｖｉｓｉｏｎ　ｍｕｌｔｉｐｌｅｘｉｎｇ）シンボルを生成する変調部と、
前記ＯＦＤＭシンボルを周波数領域から時間領域に変換し、デジタル領域で周波数ホッピングが実行されるように周波数ホッピングシーケンスに従ってＯＦＤＭシンボルの周波数を調節する変換部と、を具備するベースバンドプロセッサ。
【請求項２】
前記変換部は、
前記周波数ホッピングシーケンスに相応する時間周波数コードに基づいてバンド選択信号を生成する時間周波数コード部と、
前記ＯＦＤＭシンボルを前記周波数領域から前記時間領域に変換し、前記バンド選択信号に応答して前記周波数ホッピングを実行する逆高速フーリエ変換器と、を具備することを特徴とする請求項１に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項３】
前記逆高速フーリエ変換器は、
少なくとも２つ以上のバンドに相応するポイントサイズを有し、
前記幅選択信号に応答して前記ＯＦＤＭシンボルの入力位置を調節することによって、前記ＯＦＤＭシンボルの前記周波数を調節し、前記周波数が調節された前記ＯＦＤＭシンボルを前記周波数領域から前記時間領域に変換することを特徴とする請求項２に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項４】
前記逆高速フーリエ変換器は、５１２ポイント逆高速フーリエ変換器であることを特徴とする請求項３に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項５】
前記逆高速フーリエ変換器は、
１つのバンドに相応するポイントサイズを有し、
前記ＯＦＤＭシンボルを前記周波数領域から前記時間領域に変換し、前記ＯＦＤＭシン

ボルと前記バンド選択信号が示すバンドに相応する回転位相を乗算することによって、前記ＯＦＤＭシンボルの前記周波数を調節することを特徴とする請求項２に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項６】
前記変換部は、
前記周波数ホッピングシーケンスに相応する時間周波数コードに基づいてバンド選択信号を生成する時間周波数コード部と、
前記ＯＦＤＭシンボルを前記周波数領域から前記時間領域に変換する逆高速フーリエ変換器と、
前記バンド選択信号に応答して前記周波数ホッピングを実行するデジタルミキサと、を具備することを特徴とする請求項１に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項７】
前記デジタルミキサは、
前記ＯＦＤＭシンボルに前記バンド選択信号が示すバンドに相応する回転位相を乗算して前記ＯＦＤＭシンボルの前記周波数を調節することを特徴とする請求項６に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項８】
前記逆高速フーリエ変換器は、１２８ポイント逆高速フーリエ変換器であることを特徴とする請求項６に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項９】
前記変換器から提供された前記ＯＦＤＭシンボルを前記デジタル領域からアナログ領域に変換するデジタルアナログ変換器をさらに具備することを特徴とする請求項１に記載のベースバンドプロセッサ。
【請求項１０】
前記デジタルアナログ変換器は、少なくとも２つ以上のバンドに相応するサンプリング率を有することを特徴とする請求項９に記載のベースバンドプロセッサ。